



まつやま

広報

主な内容 No.1293

- 補助金特集……………5・6面
- プレミアム付き商品券を発行……………3面
- 市民ガイド……………7・8面
- 道後アートフェスティバル……………10面




発行：松山市役所／編集：総合政策部シティプロモーション推進課／毎月1日・15日 ☎948-6705 FAX934-2578 HP<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/>

市勢 平成27年4月1日 現在推計(前月比) ■面積:429.37km ■人口:515,342人(-520) ■男:240,415人 ■女:274,927人 ■世帯数:232,218世帯(+477) ■1世帯の平均:2.22人 ■人口密度:1,200人/km



読者プレゼント



津川雅彦さんのサイン色紙を抽選で3人にプレゼント

応募先 〒790-8571 シティプロモーション推進課「津川雅彦プレゼント」係

はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙への意見を書いて、5月29日(金)までにお送りください。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

「遊び」は心を豊かに

津川さんにとって「遊び」とは、私には「文化」は全て「遊び」からきていると考えています。大自然で見た感動は別の感動として描くと、絵や歌、芝居などの「文化」になる。その「感動」を別の感動に作り直すところを遊び心。つまり「文化」は「遊び」という基本的な精神から発達しているものなんです。「文明」は腹の足しになります。「文化」は腹の足しにはなりません。でも「心の足し」になるんです。だから、「文化」のものである「遊び」は心を豊かにするために必要ですね。

—市民へメッセージ—

私は東京があまり好きではないんです。誤解もあるかもしれませんが、「故郷を捨てた人たちが」が集まっている所で、「東京砂漠」と言うように、潤いがない町なんです。文明や享樂はありますが「文化」に乏しい。それに比べて、松山は「文化」「伝統」さらに「人情」もある。誇れることだと思います。東京で文明や享樂の恩恵にあずかることもいいですが、松山を良い町にすることを心掛け、生まれた町に恩返しをしてほしいですね。

市民文化フェスタ2015のため本市を訪れた津川雅彦さんにお聞きしました。

—松山の印象は—

松山にはよく来ますが、道後温泉は雰囲気がありますし、私も演じたことがあります。夏目漱石の『坊っちゃん』も有名ですよ。以前寿司屋を紹介されて行ったことがありますが、本当においしかったです。

—役を演じる上で、心掛けていることは—

個々の役をどうするかはその役によりますが、生身の体を使うことには変わりないので、「魂」、つまり役者としての魅力や磨き、華のある役者になりたいと思っています。そのために自分で行っている時、一瞬一瞬、一期一会をおろそかにしないようにしています。

こんにちは松山

俳優 津川 雅彦さん



1940年生まれ。京都府出身。5歳で子役デビュー。56年に映画『狂った果実』に出演。その後数々の映画やドラマ、舞台上で活躍。78年におもちゃ販売会社を自ら設立。2006年に映画『寝ずの番』で監督デビュー。06年に紫綬褒章、14年に旭日小綬章を受章。

保存してください。いつかまた お役に立ちます